

秋のめぐみだ！お芋を掘ろう！ イベント報告

10月17日・お天道様はわれらが味方。絶好のイモ掘り日和の中、佐保台小の子供達とその家族・当会の会員家族、計64名がスタッフと共に記念撮影。

いよいよイモ掘りだ。早く掘りたい子供達。つるを切り、両手に抱えて運び出し、畑をきれいに片づけて、さあスタート。スタッフが固い土をスコップでほぐす。子供達は移植ごてでせつせと土を除ける。穴の中央にお芋が立っている。なかなか抜けない。お芋は傷だらけ。パッキリ切り傷、あちこち擦り傷。無傷のイモは無。根っこに毛の生えたような小さなお芋（スタッフ曰く：こんな芋ちゃうでー）も大事に収穫。シートの上にお芋がいっぱい。

つるの長さ比べ・重さ比べ・形比べ。クリオネ・モグラ・雪ダルマなど、各班の代表が上手に発表。それぞれにドングリメダルをもらってニコニコ。

午後はならやま探検。水辺の観察、昆虫クイズ、森の落とし物、コシダのピョン、松ぼっくりの玉入れ、森のかくれんぼ、葉っぱの福笑い、年輪の勉強…8つのポイントそれぞれでシールをもらう。カードのシールを数えて、「後2つで終わりや。」と残念そうに言う子。かわいい顔、おとぼけ顔、情けない顔等、福笑いの結果には大人が喜び、記念撮影。

カナヘビの赤ちゃんをポケットに入れる子。トカゲを捕まえる



子。カマキリ入りのポリ袋を持ち歩く子。蛙を走り回っている子。…子供達は自然が大好き。

たとえ傷だらけでも、自分たちで掘ったお芋はおいしいはず。お芋のお土産をもらって、笑顔で解散。

お疲れ様！

(宮崎まさ美)

佐保台小ファーム

稲扱を見て童らのかがやく眼

一粒の籾から1本の早苗、その早苗を3本ずつ一株として田植え。以来四ヶ月半が経過し、撓わに稔った稲穂。今年は、冬場にチップの鋤入れに始まり、9月半ばまでの水管理、更にはホテイアオイなどの水田雑草の草取り作業。この除草作業は、一昔前の田園風景を思い起こさせるように、正しく中腰での手作業にエコファームチームの皆さんが悪戦苦闘。それら一連の苦勞の甲斐あって昨年とは比べものにならないほどの出来栄えとなった。佐保台小5年生が一生懸命に丹精込めて植え付けてくれた努力に、少しでも報いたいとの皆さんの心意気の表れでもある。

爽秋の10月22日、元気っ子が稲刈りにチャレンジ。

初めは覚束ない手つきであったが、次第に鎌音も昂ぶり、約一



時間で刈り終える。次に結束、稲架けと手際よく作業を進めてくれました。稲架けの竿の長さが昨年の倍近くに・・・。

一週間後の脱穀と籾摺りは、期間の途中に降雨があり、更に一週後に実施。学校行事などの関係で代表の2名が体験することになる。

コンバインの威力に目を丸くしながら稲束を運ぶ。より一層目を見張ったのは、籾摺り機の機能であった。籾が瞬く間に玄米となってでてくる様子に、鋭く質問を投げかける。自分の手で一粒の籾の殻をはがそうとしても、容易にはいかない。機械の業の凄さに感嘆しきりであった。

7回目となった体験学習も完了。毎日の食事、そして、食糧事情についても思い巡らせてくれることを期待したい。

(鈴木末一)